

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年2月28日現在

今月の重点活動

■普及活動 **平成28年度岐阜地域普及活動等成果発表会開催**

2月7日、岐阜農林事務所及び岐阜地域農業改良普及事業推進協議会主催による普及活動等成果発表会を開催し、生産者及び関係者156名が参加した。

農業普及課から、アスパラガスの新産地づくりに向けた取り組み、岐阜地域における需要に応じた米生産の推進、瑞穂市学校給食野菜生産グループの活動支援の課題について、活動成果を発表した。各課題について、共に取り組んだ関係機関からは、活動の成果や今後取り組むべき内容などについて助言があった。

また、昨年の全国農業担い手サミット in ぎふを機に結成された「岐阜就農応援隊」の本巣市地域おこし協力隊員からは、新規就農などの活動事例報告が、「合同会社いちごいちえ総合経営プランニング」の遠山敬司氏からは、農業経営を維持・発展させる手法などについて講演があった。
(地域支援第一係・宮地雄二)



【普及活動成果発表】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス **栽培研修会開催**

2月8日、JAぎふアスパラガス出荷協議会主催の栽培研修会が開催され、生産者やJAぎふの担当者など12名が参加した。

農業普及課からは、春芽に向けた肥培管理などについて説明し、昨年、アザミウマ類が多発したほ場については、越冬したアザミウマ類をこの時期にしっかり防除するよう指導した。研修会には、この春から収穫を始める生産者も参加し、収穫方法などについての意見交換が行われるなど、有意義な情報交換、技術研鑽の場となった。

農業普及課では、今後とも産地の拡大と栽培技術の向上に繋がる活動を進めていく予定である。
(園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵)



【栽培研修会の様子】

多様な担い手づくり

■集落営農法人化支援 **第3回岐阜地域集落営農塾開催**

2月13日、岐阜産業会館において、第3回岐阜地域集落営農塾が開催された。今年も、岐阜・西濃・揖斐の各農林事務所が各回を担当し、今回は、岐阜農林事務所が担当した。

集落営農塾は今年で3年目となり、これまで法人化に向けた講義も多く実施されており、今回は、法人化後の経営に役立つ情報を提供することを目的とし、法人化アドバイザーによる「しぶとい経営へのはじめの一步」と農機メーカーによる「ICTを活用した圃場管理」についての講義を設定した。

農業普及課は、経営の考え方や農地集積が進んで筆数が多くなる時の労務管理までができるソフトの紹介を行った。ややレベルの高い内容で質問は少なかったが、今後必要となる情報であると考えている。
(地域支援第三係・吉田一昭)



【塾での講義】

■えだまめ **若手生産者の意見交換会開催**

2月8日、JAぎふ島集荷場において、JAぎふえだまめ部会の若手生産者の意見交換会が開催され、対象者25名のうち18名が出席した。若手生産者の組織化や規約などについて検討を行い、代表1名、副代表2名が選出された。

代表を務めることとなった生産者からは、「会の発展に向けて尽力したい。」と力強い発言があった。今後は、3月中に会の設立会議を行い、組織名を決定する予定である。

これまで当会は、部会役員が若手生産者の意見を聞く場として設けられてきたが、昨年10月に開催された部会役員会において、若手生産者を組織化し、部会活動に参加できる体制づくりを進めて欲しいとの意見を受け、今回の組織化に繋がった。

農業普及課では、今後も部会や関係機関と連携し、えだまめ産地の振興に向けた支援を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【意見交換会の様子】

売れるブランドづくり

■水稲 JAぎふハツシモ特Aプロジェクト会議開催

2月20日、JAぎふアグリパークにおいて、ハツシモ特Aプロジェクト会議が開催され、ハツシモの食味向上に向け、JAぎふ、JA全農岐阜、農業普及課により、平成29年度産の取り組みを検討した。

まず、平成28年産の取り組み結果について報告を受けた後、平成29年産の取り組みとして、各地区で土壌診断に基づく施肥改善実証ほを設置し、食味向上効果を確認することとなった。

農業普及課からは、平成27、28年産におけるハツシモの食味分析結果を報告するとともに、平成29年産に向けた取り組み内容について助言を行った。農業普及課では、今後も、関係機関と連携し、ハツシモの食味向上対策に取り組んでいく予定である。

(地域支援第二係・今井啓司)



【会議の様子】

食味向上対策に取り組んで

■島園芸振興会 50周年記念式典盛会

2月10日、岐阜グランドホテルにおいて、島園芸振興会設立50周年記念式典が開催され、振興会会員、来賓、関係者など総勢150人が出席し、功労者への感謝状贈呈や生産者代表による「50周年を迎えて」の発表が行われた。

式典に続いて行われた基調講演では、大阪中央青果株式会社の弓削敏壽氏から、「産地・生産者と共に～これまで50年そしてこれから～」と題して、これまで島の産地と歩んできた歴史やこれから産地に期待することなどについての提言があった。

出席者からは、「この式典を契機として、島の農産物の生産振興と販売強化に向けて一層の研鑽に努め、より信頼される産地づくりに取り組んでいく。」との決意表明もあった。

農業普及課では、関係機関と連携し、記念誌の作成に係る情報提供や式典の進行支援などを行った。今後も、えだまめ、冬春ほうれんそうの主産地である島園芸振興会の農業振興に向け支援を行う予定である。(園芸産地支援第一係・川部 知)



【50周年記念式典の様子】

■だいこんなど GAP運営委員会 次年度方針など協議

2月22日、岐阜市内のホテルにおいて、岐阜市園芸振興会のいちご部会やだいこん部会などの役員やJAぎふ担当者などの関係者が出席し、GAP運営委員会が開催された。

まず、農業普及課から、今年実施したえだまめといちごの現地調査結果の報告をした後、GAP推進に向けた県の動きなどの情報提供を行った。出席した部会役員からは、「年々、作業場や農薬管理の改善が進んでいる。」との意見があった反面、「農薬の保管や防除器具の洗浄などあまり改善が進まない項目もある。」などの意見もあった。また、2020年の東京オリンピックに向け、国、県などがGAP取り組みの強化を進めている状況を踏まえ、一部の生産者からは、「現状の取り組みとして課題はあるが、時代の流れに応じ、一段上を目指していく必要もあるのではないか。」といった前向きな意見もあった。

今後、農業普及課では、GAPを巡る状況の変化などを把握し、GAP取り組みのステップアップを支援していく予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝、三和浩一、川部 知)



【GAP運営委員会の様子】